

難病・慢性疾患当事者の就労実態調査

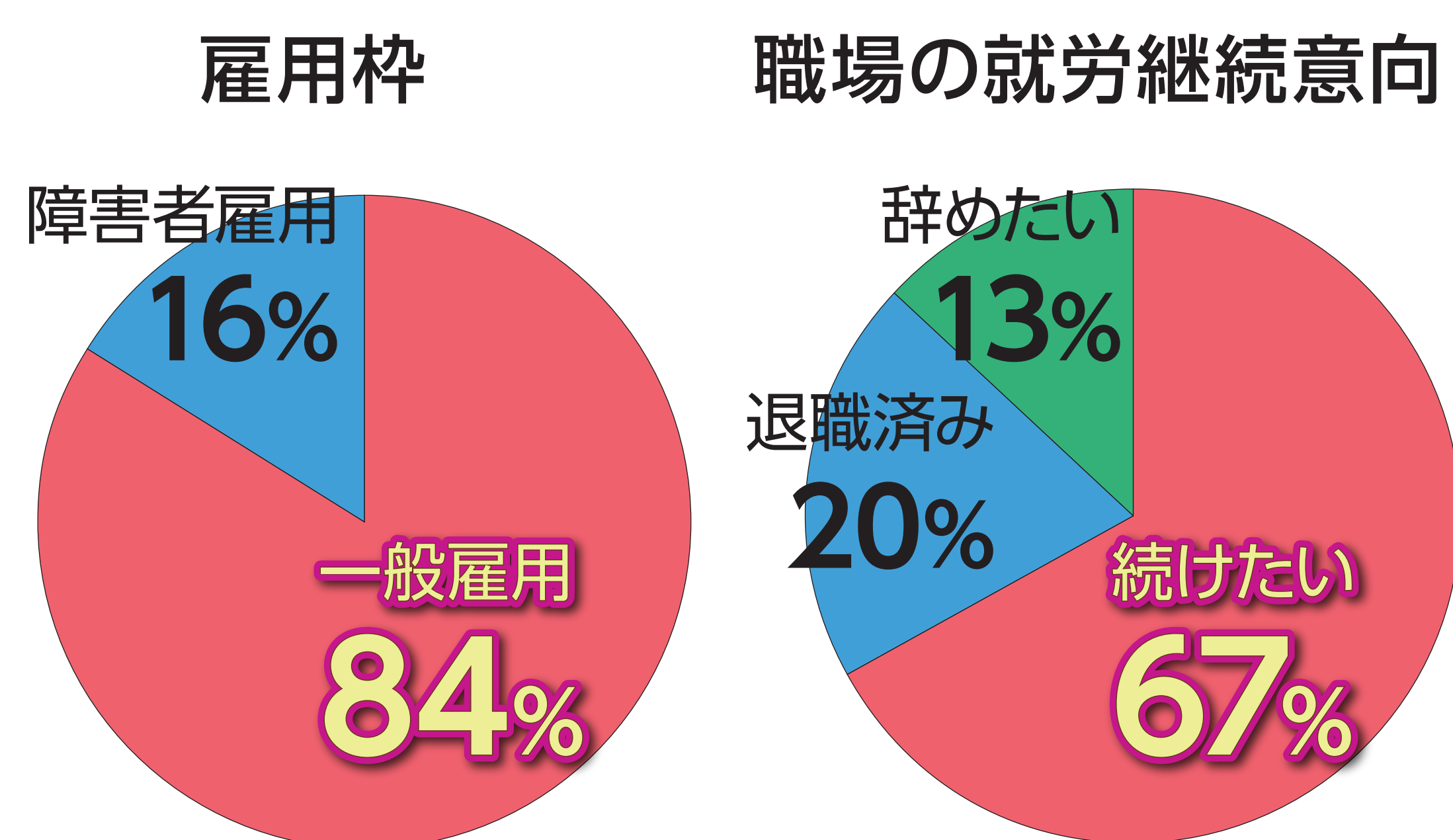
定量調査の結果

目的	患者当事者が経験した、就職・求職と就労の経験を明らかにすること
収集	オンラインでの無記名自記式アンケートをNPO法人ASridが実施
期間	2021年9月-10月
対象	18歳以上で、就職・求職活動または就労の経験があること
倫理的配慮	①アンケートの目的・利用方法の説明・同意、②個人情報等を排して分析
質問	過去10年間で最も印象に残っている仕事の状況、就職・求職の状況など
回答数	185名から回答を得て、すべてを有効回答とした。男性67名・女性118名であった 93名が身体障害者手帳を有していた

このパネルでは、各項目の記述統計を算出した定量調査の結果を掲載

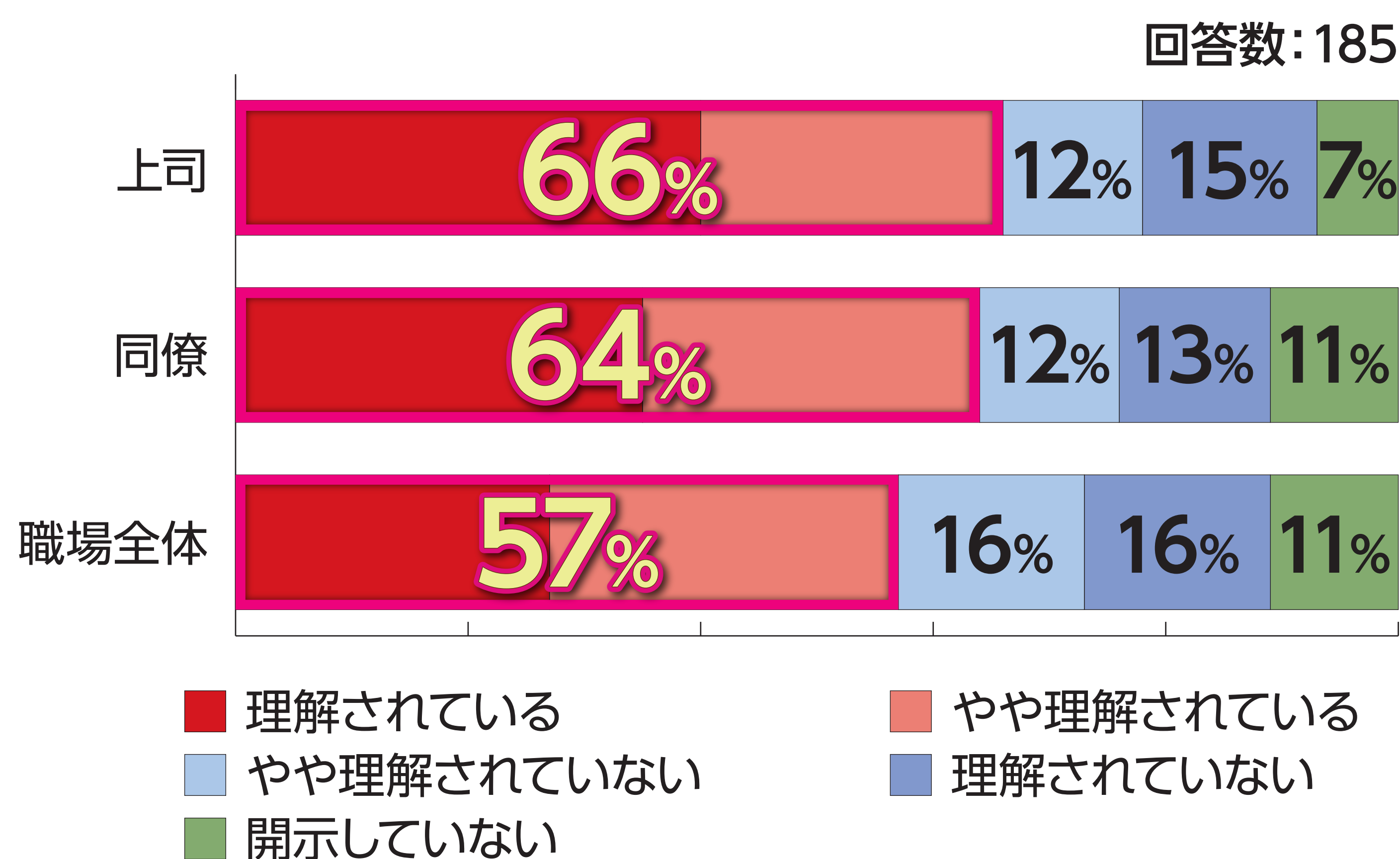
回答者の基本的属性と就労の状況

項目	平均	SD(標準偏差)	
年齢 (才)	45.2	12.2	
勤続月数 (ヶ月)	122.3	119.8	
項目	回答数	%	
立場	正社員	99	53.5
	パート等	41	22.2
	契約社員	14	7.6
休業・休職	経験あり	96	51.9



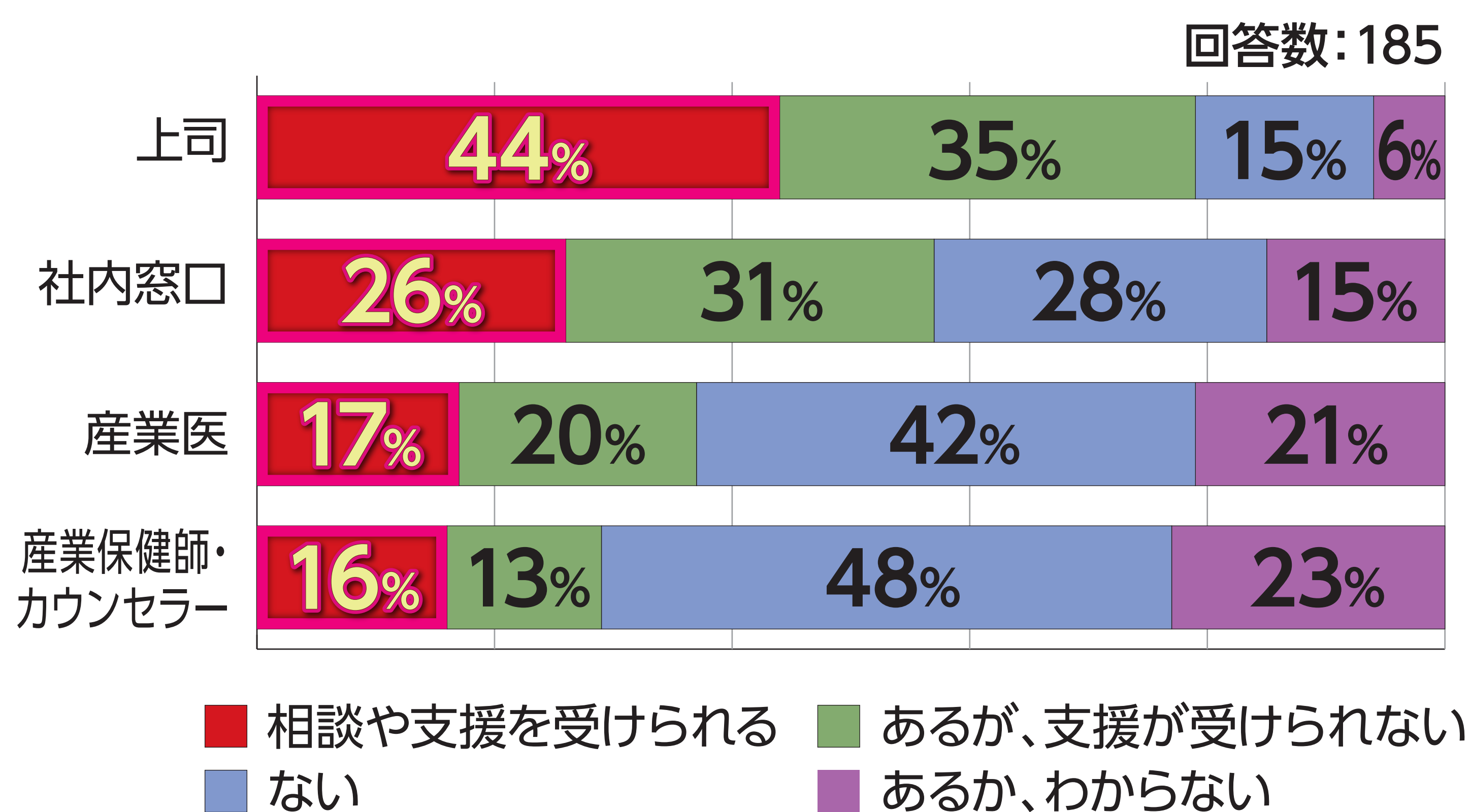
この調査では、一般雇用で、正社員として、今の職場で働き続けたいと考えるひとの割合が多かった

疾患に対する職場の理解状況



- ▶ 上司や同僚には6割以上で「理解されている」と回答したものの、その割合は職場全体ではやや下がる
- ▶ 約1割のひとが職場に対して疾患について開示していない

職場の相談・支援の体制



- ▶ 職場の相談・支援は上司・社内窓口の順で「受けられる」という回答が多かったものの、「あるが、受けられない」という回答も多い
- ▶ 産業医や産業保健師は、「ない」「あるか、わからない」という回答が多い